

## 日本遺伝学会第5回春の分科会 若手フォーラム

### 『若手研究者のリアル』開催報告書

2025年3月14日

#### <概要>

2025年3月4日、日本遺伝学会第5回春の分科会において、若手フォーラム企画『若手研究者のリアル』を開催した。本企画は、学会発表や論文では伝わりにくい若手研究者の研究事情を学生に知ってもらうことを目的とし、招待講演会として実施した。また、遺伝学会や若手の会に参加経験のない学生にその活動を知ってもらうことも意図し、遺伝研講堂での現地開催とオンライン配信を併用したハイブリッド形式で実施した。当日の参加者は、現地参加34名（うち幹事9名）、オンライン参加17名の計51名であった。

本企画では、1名のベテラン研究者と4名の若手研究者を招待し、学位取得後のキャリアや研究環境の変化、査読、予算獲得、共同研究、留学生活における課題など、若手研究者が直面する具体的な経験についてご講演いただいた。若手研究者として畠澤卓博士（東大）、飯塚朋代博士（遺伝研）、中村遥奈博士（総研大）、加藤雄大博士（都立大）に、ご自身の研究内容に加え、研究環境の変化や査読、予算獲得、共同研究、留学生活の苦労など駆け出しの研究者が初めて直面した苦労をお話ししていただいた。ベテラン研究者として、篠原美紀教授（近畿大）にはご自身が学位を取られてから現在の職位を得るまでにご苦労された話や若手へのアドバイスをご講演していただいた。



本企画では、研究キャリアの過渡期にある若手研究者の実体験を共有することで、学生や若手研究者がアカデミアにおけるキャリアパスをより具体的にイメージできる機会を提供した。講演後の懇親会では、参加者同士の交流が活発に行われ、研究内容や研究環境についての意見交換が行われた。参加者からは、「他の研究者の経験を聞くことで、今後の研究活動の参考になった」「今後もこのような企画に参加したい」との意見が寄せられた。講演後にも個別に質問をする参加者の姿が見られ、企画全体を通じて有意義な機会となったことがうかがえた。

## <参加者アンケート結果と反省点>

本企画に対するアンケートには9名の方からご回答をいただくことができた。アンケートにご回答いただいた方の身分・職位は本会のターゲットである若手のみ（ポストドク2名、博士課程3名、修士課程2名、学部生2名）で、うち1名はオンライン参加者であった。全回答者が本企画への満足度を5満足と回答しており、以下7件のフィードバックをいただいた。

- 若手の会ならではの企画でとても楽しめました。
- 若手の方々の興味深い話を聞くこともでき、ポスターセッションでの発表も面白く、参加してよかったと思います。
- 普段の大学生活ではなかなか触れることができない内容であり、非常に興味深く、学びが多かったです。また、今後の自分の活動や考え方に大きな影響を与える貴重な時間となりました。
- 若手の研究者の方々の取り組みや現在進行形で悩まれていることなど赤裸々に語っていただけていたので今後の自分のキャリアや取り組みについての参考になった。
- 若手ポストドクの方のキャリアについて40分ほどの長い時間で話を聞くことが出来て良かったです。
- 若手研究者のリアルを若手研究者から知ることができて、とてもありがたい会でした。
- 研究者の研究内容について聞くことは多いが、そこまでの苦労やそこでの苦悩についてここまで深掘りした話は中々機会が無かったので非常に有難い話ばかりだった。今後もこのような講演会を開催してほしいと思った。

一方で、以下のようなご意見もいただいた。今後の企画にて改善していく必要がある。

- 会場へのアクセス案内がいささか不足していたように思われました。学会大会等で見られる、案内の看板等があれば良かったかもしれません。
- 昨年はアイスブレイク的な座談会があったが、今年はそのような要素がなかったため、少し残念でした。また、昨年のC枠のような分野横断的な要素が少なくなったのもさみしかったです。

また、遺伝学会年会へ参加したいというコメントや若手の会のメーリスへの新規参加希望者の獲得にもつながった。

以上のことから、本企画は、学会発表や論文では語られない若手研究者の「リアル」な研究事情を学生に知ってもらい、学生とベテラン研究者の間の期間について考える機会として十分に機能し、遺伝学会に参加したことのない学生に遺伝学会や若手の会を知ってもらうことができたのではないかと考えている。

### <謝辞>

本企画のご講演者である篠原美紀先生、畠澤卓博士、飯塚朋代博士、中村遥奈博士、加藤雄大博士には、ご多忙の中ご登壇いただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。また、本企画の運営に際し、日本遺伝学会 教育担当幹事の村井耕二先生、大学保一先生、はじめ、第5回春の分科会開催にご尽力いただいた関係者・スタッフの皆様にも厚く御礼申し上げます。特に、大学保一先生には会場手配や企画調整などご支援を賜りました。この場を借りて、改めて感謝申し上げます。加えて、弊会は日本遺伝学会の後援のもと活動しております。日本遺伝学会長の岩崎博史先生、ならびに会員の皆様に深く感謝申し上げます。

最後になりますが、本企画にご参加いただいたすべての皆様に、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。(文責：東京都立大 藤近敬子)